



Title	宮津における素材待遇形式ナル
Author(s)	酒井, 雅史
Citation	阪大社会言語学研究ノート. 2015, 13, p. 16-27
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/51438
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

宮津における素材待遇形式ナル

酒井 雅史

【キーワード】 宮津方言、ナル、使用対象、待遇価

【要旨】

本稿は、2014年度に京都府宮津市において実施した敬語調査のうち、素材待遇形式ナルについて報告するものである。調査で得られた結果から、宮津のナルについては以下のようにまとめられる。

- (A) 宮津で用いられる素材待遇形式ナルはすべての活用形を備えており、A類～C類すべての従属節において生起可能である。
- (B) ナルはほぼすべての人物を待遇するときに用いられ、対者待遇と第三者待遇での使用対象の違いはみられない。
- (C) ナルには、いわゆる身内尊敬用法が女性のみにもみられ、男性は第三者待遇では身内に対して敬語形式を使用しない。
- (D) 宮津で用いられる敬語形式はオイデル、(ラ) レル、ナル、テヤである。これらの形式の待遇価は、(ラ) レル>オイデル>テヤ>ナルの順に高いと考えられる。

1. はじめに

本稿では、2014年度に京都府宮津市において実施した敬語調査の中から一次報告として、素材待遇形式ナルについて報告する。京都府宮津方言（以下、宮津）の素材待遇形式については、奥村（1962）や、遠藤（1982）、国立国語研究所（1990）でナルという形式が使用されていることが確認できる。しかし、ナルが使用されること以外の詳細に関する記述は管見の限り見当たらない。そこで、本稿では、宮津市において行なった臨地調査の結果をもとに宮津の素材待遇形式ナルに関する報告を行なう。

以下、2節で宮津の敬語形式に関する先行研究に触れたのち、3節で調査概要について述べる。4節で調査結果をみたのち5節でまとめと今後の課題を述べる。

2. 先行研究

宮津の敬語に関する研究については先述のとおり国立国語研究所（1990）、奥村（1962）、遠藤（1982）などがある。

国立国語研究所（1990）では、言語行動に注目しており、素材待遇形式と丁寧語の使用を場面間の違いから分析している。奥村（1962）および遠藤（1982）では、京都方言に関する概観のなかで、宮津を含む西丹波地方の敬語法として、以下のことが述べられている。

- (i) 敬語法、読ミナアル (奥村 1962:261)
- (ii) 宮津地方や（中略）指定法にジャ・ヤを使用しているのに、敬語のみは丹後的

な書キナル形を用いているのである。もっとも、宮津・舞鶴・加佐などの所謂緩衝地帯においては、書キナルが書キナルと長く発音される傾向があり、(後略) (奥村 1962:281)

(iii) ナル・ナルの活用は、やはり、ラ行五段である。 (奥村 1962:281)

(iv) 西丹波では、タベナツタ「お食べになった？」¹⁾ というナル (ナル) 系であり、明らかに丹後方言と一致する。 (遠藤 1982:95)

(v) (前略) 語彙的にはオヤスマヤス・オイデヤスなど、慣習的挨拶語として府下一円に使われている (後略)。 (遠藤 1982:106)

以上の (i) ~ (v) の記述から、宮津では素材待遇形式としてナルおよびナルを長く発音するナル (ナル) が使用されており、その活用はラ行五段型であることがわかる。これらの記述を確認するため、敬語に関する項目について国立国語研究所 (2006) の『方言文法全国地図』第 6 集 (以下、GAJ) をみておく。GAJ の回答をまとめたものが表 1 である。表中の「B」は非常に丁寧な言い方をするとき、「A」は少し丁寧な言い方をするときの場面での回答である。

表 1 宮津における GAJ の回答一覧

	動詞	B	A	質問番号	地図番号
対者場面	書く	オカキニナリマスエ	カキナリマスエ	252	271・273図
	行く	イキナリマスエ	イキナル	246	275・276図
	来る	コラレマスエ		250	278・279図
	居る	オイデル		249	281・284図
	知る	シットラレマスエ	シットイデルカ	251	287・288・290図
	食べる	タベトイデマスエ	タベトンナルカエ	253	291・292図
	言う	イーナリマシタエ	イーナツタエ	254	293・294図
第三者場面	行く	イキナルダロナ	イクンダロナ	267	295・296図
身内(父)場面	居る (対者場面)	オルンカ		265	285・286図
	来る (第三者場面)	キマスデ	クルデ	264	315・318図
行為指示場面 (命令)	行く	イキナハレ／イキナハツタラドーデスエー		257	297・298図
	来る	キトクンナハレ	キトクレナ	255	300・301図
	居る	オットクンナハレヨ	オイデーヨ／ナ	256	303・304図

表 1 から宮津で回答のある敬語形式は、オ～ニナル、ナル、ラレル、ナハル (以上、一般形) と、オイデル (特定形) であることがわかる²⁾。

以上の先行研究および GAJ の回答から、宮津の敬語については、以下のようにまとめられる。

(VI) 使用される素材待遇形式は、レル、ナル、ナハルであり、テヤ敬語法は用いられない。

(VII) 場面間の使い分けから、ラレル>オイデル>ナルの順に待遇価が高いと考えら

- 1) 遠藤 (1982) では共通語訳の「お食べになった？」に、カナで方言形の振り仮名を付す形で示されているが、本稿では方言形 (カナ) 「共通語訳」の形に改めた。
- 2) 菊地 (1997) では敬語形式を、「～(ら)れる」のように多くの動詞に使えるものを「一般形」とし、「いらっしゃる」のように特定の動詞に対応する敬語形式を「特定形」として区別している。本稿においても、特定の形式について言及する場合を除きこれらを区別して呼び分ける。

れる。

(Ⅷ) 身内への尊敬語の使用がみられない。

(Ⅸ) 特定形は、イラッシャル・メシアガルなどの回答はなく、「居る」に対する特定形オイデルのみ回答されている。また、「来る」のみナルによる回答がない。

(Ⅹ) 関西方言域で用いられる卑語形式のヨルの回答がない。

(Ⅺ) 行為指示表現（命令）に限り、ナハルの命令形ナハレが使用される。

以上、本節でみたように、宮津の素材待遇形式については、文法的特徴としてナルの活用がラ行五段型であること以外に関する詳細については触れられていない。また、言及されている素材待遇形式のナルについても使用されていることがわかるのみで、細かな使い分けについては明らかになっていないと思われる。したがって、2014 年度の調査では、次のことを明らかにすることを目的に現地調査を行なった。

- ・宮津の素材待遇形式について、使用する形式の確認をする。
- ・宮津の素材待遇形式について、文法面に関する基本的事項（活用・統語・相互承接）を確認する。
- ・宮津における素材待遇形式の使い分けについて調べる。

3. 調査概要

本節では、調査の概要について述べる。まず、3.1 節で調査を行なったインフォーマント情報について、3.2 節では調査で用いた調査文について述べる。

3.1. インフォーマント情報

調査は、2014 年 9 月 3 日および 4 日に調査票を用いた面接調査を行なった。調査を行なったインフォーマントは以下、表 2 のとおりである。

表 2 インフォーマント情報

インフォーマントID	地区	調査時年齢	性別	外住歴
MFM	宮津	73	男	42-45：福井県小浜市、45-51：京都府亀岡市
MGF	宮津	73	女	なし

敬語形式の使用については一般に男女差があることが指摘されているため、男性と女性のインフォーマント 1 名ずつに調査を行なった。それぞれのインフォーマントは、言語形成期を宮津地区で過ごしたことを条件としている。

3.2. 調査方法

敬語班の調査では、簡易使い分け調査（簡易調査）、活用・統語調査、使い分け調査の 3 種の調査を実施した。調査は簡易調査→活用・統語調査→使い分け調査の順に行なった。簡易調査では GAJ の調査文を用いて使用する敬語形式の確認と簡単な使い分けの有無を調査したが、活用・統語調査、使い分け調査と重複するため簡易調査の結果については本報告では触れない。以下、3.2.1 節で活用・統語調査の調査文を、3.2.2 節で使い分け調査の

調査文を提示する。

3.2.1. 活用・統語調査文

本節では、素材待遇形式の活用および統語的生起環境に関する調査について述べる。

活用の調査では、簡易調査で得られた素材待遇形式についてこちらから語形を提示する形で使用の可否およびそのほかの言い方をするか否かについて調査した。具体的には、五段（書く）、上一段（見る）、下一段（食べる）、カ変（来る）、サ変（勉強する）のそれぞれの動詞の種類について、非過去・過去・推量・連体非過去・連体過去・中止・仮定・否定・命令の活用と使役・受身・可能・継続・丁寧それぞれを表す接辞との相互承接について調査した。

次に、簡易調査および活用調査で得られた素材待遇形式の統語的位置による生起可能性について確認をした。調査文は（1）～（8）のとおり。

- （1）ナガラ《A類》【何かイベントの参加受付のときに】³⁾

あの方は、帳面にご自分のお名前を書きなさりながら、そうおっしゃった。

- （2）テモ《B類》【町内会の会合などで決をとるときに】

あの方が反対の方に手を上げなさっても、賛成の方が多いだろうから決まるだろう。

- （3）バ《B類》【役に立つ情報を多く流しているテレビ番組について話しているときに】

あの方もこの番組を見なされば良いのに・・・

- （4）カラ《C類》【町内の旅行の計画について話しているときに】

あの方も来なさるから、駅までお迎えに行って。

- （5）ケド《C類》【目上の人の予定を知っているか聞かれて】

あの方は午前中は用事が有りなさるけど、午後は空いてらっしゃるそうだ。

- （6）【目上の人のこと話題にして】

あの方は背が高くていらっしゃる。（※ナルは形がそもそも不可かどうか）

- （7）【祭りで目上の人のことを話しているときに】

あの方はとても楽しくていらっしゃる。（※ナルは形がそもそも不可かどうか）

- （8）あの方は大臣でいらっしゃる。（※ナルは形がそもそも不可かどうか）

統語調査においても活用調査と同様に、語形を提示する形で使用の可否を問い、その他の言い方をするかどうかについても確認した。

3.2.2. 使い分け調査

使い分け調査では、対者場面および第三者場面において設定した人物に対してどのように言うかについて尋ねた。聞き手または第三者として設定した人物は以下表3に示したとおりである。表中、疎の人物として設定した「他地区の年上」などは、インフォーマント

3) 以下、本稿では例文を示す際は、文脈や使用者などの補足情報を【 】内に入れて示す。

の居住する地区とは異なる宮津市内の他地区の人物を想定してもらい調査を行なった。

表 3 設定した聞き手および第三者

話し手と 聞き手 の関係	ウチ			ソト					
	目上	対等	目下	親			疎		
				目上	対等	目下	目上	対等	目下
例	両親	配偶者	兄弟	近所の 年上	近所の 同じ年	近所の 年下	他地区の 年上	他地区の 同じ年	他地区の 年下

聞き手は、菊地（1997）であげられている社会的ファクター（上下の関係・立場の関係・親疎の関係・内／外の関係）をもとに設定した。なお、〈親／疎〉は対人的な関係の尺度として用いられているが、どのような相手を親しい／親しくないとするかは個人によって異なると考える。たとえば、違う地域でも頻繁に交流を持っている人物は親しく、同じ地域であまり交流がない人物は親しくないということもあると思われる。そのような場合、親疎という要因が使い分けの要因となっているのか他地区か否かが使い分けの要因になっているのかをインフォーマントごとに統一できない。そのため、本稿では便宜的に〈親〉を「近所の」〈疎〉を「他地区の」というように地域の違いに読み替えている。

ウチソトは、方言の待遇表現運用における特徴の一つとして挙げられる「身内尊敬用法」の有無を確認するために、話し手の家族かそれ以外かによって区別をした。上・対等・下という上下関係は話者と聞き手もしくは第三者との年齢の上下を軸に設定している。上と下はそれぞれ一世代上・一世代下の人物を想定してもらっている。

調査の際は、以上の人物に当てはまる人物を想定してもらい行なった。具体的な調査文は以下のとおりである。

【対者待遇】

(9) 【朝起きた時など家の中で、予定を聞く場合など】

Xに「今日の夏祭りに行くか」と尋ねるとしたら、ふだんどのように言いますか。

(10) 【家の中などで、[X]があとから遅れて来る旨を伝えてきた場合など】

Xに「花火の時間までには来るか」と尋ねるとしたら、どのように言いますか。

(11) 【朝起きた時など家の中で、予定を聞く場合など】

Xに「明日は家にいるか」と聞くとしたら、ふだんどのように言いますか。

【第三者待遇】 聞き手＝〈ウチ・対等〉⁴⁾ または〈親・対等〉

(12) 「Xは今日の夏祭りに行くだろうか」と尋ねるとしたら、ふだんどのように言いますか。

(13) 「Xは夏祭りに来るだろうか」と尋ねるとしたら、ふだんどのように言いますか。

(14) 「Xは公民館にいるだろうか」と尋ねるとしたら、ふだんどのように言いますか。

調査文は、待遇する相手が対者の場合と第三者の場合を設定した。また、調査文に用い

4) 以下、本論文では設定人物の属性について触れる際は〈 〉を用いて示す。

た動詞は五段動詞の「行く」、カ変動詞の「来る」、一段動詞の「居る」である。これらの動詞を調査文に用いたのは、共通語の「いらっしゃる」にあたる尊敬語動詞の有無およびそれとの使い分けの有無を調べるためである。なお、インフォーマントによる違いが出ないようにするため今回の調査では〈ウチ・対等〉の人物を配偶者に固定して調査を行なった。そのため、第三者待遇の調査文では〈ウチ・対等〉を第三者とするときのみ、聞き手を〈ウチ・対等〉ではなく〈親・対等〉としている。

4. 調査結果

本節では、調査結果についてみていく。4.1 節で活用・統語調査に関する結果を、4.2 節で使い分けに関する結果についてみていく。なお、その前に行なった簡易調査においてナルのみ回答があったため、以下の活用・統語調査ではナルの結果について示す。その他の素材待遇形式や一般形の使用については 4.2 節でみる使い分けの結果で触れる。なお、先行研究で言及のあったナルが長く発音されるナアル（ナール）を使用するという回答はなかった。

4.1. ナルの活用・統語

4.1.1. 素材待遇形式の活用

まず、活用の調査結果についてみる。五段動詞「書く」を例に具体的な回答形式を表 4 に示す。

表 4 活用調査の結果（五段動詞「書く」）

非過去	過去	推量	中止	仮定
カキナル	カキナッタ	カキナロウ カキナルヤロウ	カキナッテ	カキナッタラ
連体 非過去	連体 過去	否定	命令	
カキナルトキ	カキナッタトキ	カキナラン カキナラヘン	カキナレ	

活用調査の結果では、動詞の種類による使用の可否および特殊な形式の回答はなかった。推量を表す接辞ロウが後接するときにはカキナロウ・カキナルヤロウの回答があったが、カキナルヤロウのほうが言いやすくよく使用するという内省であった。ナルはすべての活用形を持っており生産的に使用できる素材待遇形式である。

つぎに、その他の接辞との承接について表 5 に示す。

表 5 その他の接辞との承接（五段動詞「書く」）

使役	受身	可能	継続	丁寧
カカセナル	カカレナル	NR	カイトンナル カイテナル	カキナリマス

表にあるように継続のテルおよびトルと共起するときは、テルおよびトルの後ろにつき、カキナツトル、カキナッテルのように前に来ることはない。アスペクトに後接する際の形は、カイトイナルとはならずカイテナルとなる。カイトルのルとナルがパラディグマティックな関係となっており、カイテにナルが後接していると分析することができる。なお、可能については「受身と同形となるため可能の解釈にはならない」というインフォーマントの内省があり回答を引き出すことが出来なかった。

4.1.2. 素材待遇形式の生起環境

次に、統語調査の結果について述べる。調査文に沿って結果を示すと（15）～（22）のようであった。

（15）ナガラ《A 類》

あの方は、帳面にご自分のお名前をカキナリナガラ、そうおっしゃった。

（16）テモ《B 類》

あの方が反対の方に手をアゲナッテモ、賛成の方が多いだろうから決まるだろう。

（17）バ《B 類》

あの方もこの番組をミナツタラ／ゴランニナツタラ良いのに・・・

（18）カラ《C 類》

あの方もキナル／オイデル／イラッシャルカラ、駅までお迎えに行って。

（19）ケド《C 類》

あの方は午前中は用事が*アリナルケド⁵⁾、午後は空いてらっしゃるそうだ。

（20）あの方は背が高くて*オンナル。

（21）あの方はとても楽しくて*オンナル。

（22）あの方は大臣でオンナル／オイデル。

（15）～（19）からわかるように、宮津で用いられる素材待遇形式ナルは、従属節の A 類～C 類すべてにおいて生起可能である。また、特定形を持つ動詞についての調査をしていないため、A 類で利用できるかどうかは今回の調査では確認できていないが、B 類と C 類の調査においてゴランニナル（（17））およびオイデル、イラッシャル（（18））の回答がみられた。また、（20）（21）に示したように、形容詞述語ではナルは使用することが出来ない。なお、宮津の素材待遇形式ナルは、一人称主語で用いることは出来ない。

5) 以下、調査結果を示す例文では文法的に使用不可のものは「*」を付す。

(23) 私は夏祭りに*イキナル。

以上、本節では宮津の素材待遇形式ナルの活用および統語的生起環境についてみた。本節でみた結果をまとめると次のようになる。

(A) 宮津で用いられる素材待遇形式ナルはすべての活用形を備えており、A 類～C 類すべての従属節において生起可能である。

4.2. ナルの使用対象

前節では、ナルの活用および統語的特徴について確認した。本節では、素材待遇形式の使い分けについてみていく。

素材待遇形式の使い分けに関する結果は、表 6（対者待遇）および表 7（第三者待遇）のようであった。表 6 と表 7 では「行く」「来る」「居る」ごとに得られた結果を記号に置き換える形で示している。

表 6 素材待遇形式の使い分けに関する調査結果（対者待遇）

		ウチ			ソト					
		行く 来る 居る			親			疎		
					行く	来る	居る	行く	来る	居る
MGF	上	●	●	●φ	●φ■	●△■	★● ■φ	●△	●△	■+♪ ●★
	対等	●φ	●	φ●	φ■●	φ●■	●φ■	●△	●△	■+♪ △★
	下	φ	φ●	φ	φ■●	φ●■	●■φ	φ●	●	φ●★
MFM	上	●	●	●φ	♪●	●	●★	●	●	●★△
	対等	φ	φ	φ	●φ	●φ	●★φ	●φ	●φ	●★
	下	φ	φ	φ	●φ	●φ	φ●★	●φ	●φ	φ●★

【凡例】●：ナル、■：テヤ、△：レル、★：オイデル、♪：丁寧語、φ：無標形式

表 7 素材待遇形式の使い分けに関する調査結果（第三者待遇）

		ウチ			ソト					
		行く 来る 居る			親			疎		
					行く	来る	居る	行く	来る	居る
MGF	上	φ●	φ●	φ●	●φ	●φ	●φ★	△●	●	●★
	対等	φ●	φ●	φ●	●φ	●φ	●■φ	△●	●	●★
	下	φ	φ	φ	●φ	●φ	●■φ	φ●	φ●	●★
MFM	上	φ	φ	φ	△●	●	●★△	●△	●△	●★△
	対等	φ	φ	φ	φ●	●φ	●★	●φ	●φ	●★△
	下	φ	φ	φ	φ●	φ●	●★φ	φ●	φ●	●★φ

【凡例】●：ナル、■：テヤ、△：レル、★：オイデル、φ：無標形式

表 6 および表 7 から宮津の素材待遇形式ナルについて以下のことが指摘できる。

(a) 宮津で使用されている素材待遇形式ナルはもっとも使用対象が広い素材待遇形式

である。

- (b) ナルは対者待遇・第三者待遇に関わらず身内以外のすべての人物に対して使用される。
- (c) 身内に対する使用をみると男性と女性で回答が異なることがわかる。すなわち、男性は対者待遇では〈ウチ・上〉に対してはナルを使用するが、女性は対者待遇・第三者待遇ともに〈ウチ・対等〉以上の人物に対してナルを使用している。
- (d) ナルは丁寧語との共起は可能であるが、設定した使用対象に対する使用の結果では丁寧語とナルを一緒に使用する回答は得られなかった。

宮津の素材待遇形式ナルは、ともに回答のあった他の素材待遇形式（(ラ) レル、テヤ）および特定形（オイデル）とは異なり、ほぼすべての対象を待遇する際に使用できる素材待遇形式である（a）。さらに、ナルのみ丁寧語とともに用いる回答は得られなかった（d）。ナルの使用対象を詳しくみると、対者待遇・第三者待遇ともに〈ソト〉の人物のすべてに対して使用される。

- | | | |
|--------------------------|-----|------------|
| (24) 明日の夏祭りに イキナル | [●] | 【MGF: 対親上】 |
| (25) Xさんは明日の夏祭りに イキナルヤロカ | [●] | 【MGF: 三親上】 |
| (26) 花火の時間までには キナルカ | [●] | 【MFM: 対疎対】 |
| (27) Xさんは夏祭りに キナルヤロカ | [●] | 【MFM: 三疎対】 |
| (28) 明日は家に オンナル | [●] | 【MGF: 対親下】 |
| (29) Xさん明日は家に オンナルヤロカ | [●] | 【MFM: 三疎下】 |

ナルには（ラ）レルやテヤのような使い分けはなく、〈ソト〉の人物に対する使用をみる限り待遇価はそれほど高くないと考えられる。ただし、MFM の ϕ との使い分けをみると、待遇価が ϕ よりも低い形式であるとは考えられない。

また、身内に対する使用には男女差がみられる（c）。男性の MFM は対者待遇で〈ウチ・上〉にのみナルを使用しそれ以外の人物には ϕ を用いる。一方、女性の MGF は対者待遇では〈ウチ・対等〉以上の人物に対してナルを使用する。〈ウチ・下〉には1例用いるという回答であったが ϕ との併用回答であった。第三者待遇では、男性の MFM は素材待遇形式を用いず ϕ で待遇するのに対して、女性の MGF は対者待遇と同様に〈ウチ・対等〉以上の人物はナルで待遇している。今回の結果からでは、家族以外の人物と話す場面で家族のことを言及するときに敬語形式を用いる、いわゆる身内尊敬用法は女性のみ認められるという結果であった。

4.3. ナル以外の素材待遇形式の使用

次に回答のあった他の形式に触れておく。宮津で用いられる敬語形式は、先に述べたように（ラ）レル・ナル・テヤ・オイデルであった。これらの形式のうち、今回使い分け調査で設定した人物に対しては、オイデルは「居る」のときのみ使用され「行く」「来る」では使用しないという回答であった。男性と女性で〈親〉に対する使用対象が異なるが、〈疎〉の人物および〈上〉の人物に対する使用が多く、距離のある人物に対して使用されることがわかる。（ラ）レルもまた、使用される人物は〈上〉〈疎〉の人物に偏りがみられ、オイ

デルと同じく距離のある人物に対して使用される形式であると考えられる。

(30) 明日は家に オンナルカ。 [●] 【MGF: 対親上】

(31) 明日の夏祭りに コラレル。 [△] 【MGF: 対親上】

また、(ラ) レルは丁寧語とともに使用するという回答が多かった。

(32) 明日の夏祭りに イカレマスカ。 [△+♪] 【MFM: 対疎上】

丁寧語はテヤを使用する MGF の回答でもみられ〈疎・上〉〈疎・対等〉に対して使用されていた。

(33) 明日は家に オッテデスカ。 [■+♪] 【MGF: 対疎上】

宮津において標準語形式の(ラ) レルは、〈上〉〈疎〉の人物に対して使用され〈下〉の人物には使用されない点、丁寧語とともに用いられることが多いことから、待遇価の高い形式として使用されていると考えられる。

(ラ) レルと同じく丁寧語とともに使用されるテヤは女性による回答のみであった。男性インフォーマントの MFM からは「宮津以外では男性も使用する」形式であり「宮津の女性でもほとんど使用しない」という内省があった。テヤを使用する MGF の使用をみると、対者待遇では〈親〉の人物に対しては上下に関係なく用いられ、〈疎〉の人物には〈上〉と〈対等〉に対する使用が1例ずつみられるのみであった。第三者待遇では、〈親〉の〈対等〉〈下〉に対して使用している。〈疎〉の人物よりも〈親〉の人物に対する使用が多いことから、丁寧語とともに用いられているが、(ラ) レルほど待遇価は高くない形式であると思われる。

4.4. 宮津における素材待遇形式の待遇価

さいごに、それぞれの敬語形式をどの対象にいくつ（最大で6つ）用いているかという観点から結果をまとめて示しておく。結果は、表8および表9のようであった。表8および表9では、2人のインフォーマントの回答を合わせて集計している。身内尊敬用法の有無など個人差を無視してもよいのかという問題もあると思われるが、そのような個人差を超えて重なりをみることで、それぞれの敬語形式が持つ待遇価の違いを明らかにすることができるためである。なお、表8と表9では回答の偏りをみえやすくするため表6と表7の使用対象の並びとは同じではない。

表8 敬語形式ごとの使用数（対者待遇）

	ウチ・下	ウチ・対	ウチ・上	親・下	親・対	疎・下	親・上	疎・対	疎・上
(ラ)レマス [△+♪]							3	1	2
(ラ)レル [△]							1	3	3
オイデル [★]				1	1	2	2	2	2
テデス [■+♪]								1	1
テヤ [■]				3	3		3		
丁寧語 [♪]							1		
ナル [●]	1	3	6	6	6	6	6	5	6
無標形式 [φ]	6	5	2	6	6	6	2	3	

表 9 敬語形式ごとの使用数（第三者待遇）

	ウチ・下	ウチ・対	ウチ・上	親・下	親・対	疎・下	親・上	疎・対	疎・上
(ラ)レル [△]					1		2	2	4
オイデル [★]				1	1	2	2	2	2
テヤ [■]				1	1				
ナル [●]		3	3	6	6	6	6	6	6
無標形式 [φ]	6	6	6	6	6	5	3	2	

表 8 および表 9 から、(ラ)レルとオイデルは、相対的に距離のあると考えられる〈疎・上〉〈疎・対等〉に使用が偏り、距離の近いと考えられる〈親〉や〈ウチ〉に対しては使用されない。一方、ナルとφは〈親〉や〈ウチ〉に対して使用されており、(ラ)レルやオイデルよりも待遇価は低いことがわかる。なお、ナルとφではもっとも距離の近い〈ウチ・下〉に対する使用数の違いからナルのほうが待遇価が高いと考える。女性のみが使用するテヤは、回答数が少なくその他の形式との違いがわかりにくい、対者待遇で丁寧語を伴わない回答は〈親〉の人物だけである点で(ラ)レルよりも待遇価が低く、〈ウチ〉の人物に対しては使用されない点でナルよりも待遇価が高い形式であると考えられる。なお、丁寧語のみの回答は 1 例だけであったが、(ラ)レルやテヤなどナルよりも待遇価の高いと考えられる形式と共起していること、回答が〈親・上〉の人物に対するものであったことから、ナルよりも丁寧な言い方であるとしておく。

以上、本節では敬語形式の使い分けに関する調査結果についてみた。本節でみた使い分けについての調査結果から宮津の素材待遇形式ナルについてまとめると次のようになる。

- (B) ナルはほぼすべての人物を待遇するときに用いられ、対者待遇と第三者待遇での使用対象の違いはみられない。
- (C) ナルには、いわゆる身内尊敬用法が女性のみにもみられ、男性は第三者待遇では身内に対して敬語形式を使用しない。
- (D) 宮津で用いられる敬語形式はオイデル、(ラ)レル、ナル、テヤである。これらの形式の待遇価は、(ラ)レル＞オイデル＞テヤ＞ナルの順に高いと考えられる。

5. まとめと今後の課題

本稿では、宮津の敬語形式について行なった調査結果について報告した。本稿で報告した内容をまとめると次のようになる。

- (A) 宮津で用いられる素材待遇形式ナルはすべての活用形を備えており、A 類～C 類すべての従属節において生起可能である。
- (B) ナルはほぼすべての人物を待遇するときに用いられ、対者待遇と第三者待遇での使用対象の違いはみられない。
- (C) ナルには、いわゆる身内尊敬用法が女性のみにもみられ、男性は第三者待遇では身内に対して敬語形式を使用しない。
- (D) 宮津で用いられる敬語形式はオイデル、(ラ)レル、ナル、テヤである。これらの形式の待遇価は、(ラ)レル＞オイデル＞テヤ＞ナルの順に高いと考えられる。

2014 年度調査の結果から、宮津の素材待遇形式ナルについては以上のようにまとめられ

と考えられるが、いくつかの問題点も残されている。

- ・今回の調査では男性女性1名ずつのみの調査であったが、使用する敬語形式とその待遇価や性差などに関してインフォーマント数を増やして確認する必要がある。
- ・本稿では先行研究と同様に使用がみられなかったため言及していないが、大阪を中心とした関西方言において報告されているヨルの使用と卑語性の確認、敬語形式に関する感情性待遇の有無についても調査することが求められる。
- ・ナルの使用対象は、今回の調査で設定した場面および人物では、どのような人物に対しては使用出来てどのような人物に対しては使用しないのか、はっきりとした結果が出たとは言いがたい。
- ・素材待遇形式ナルには命令形が存在することが新たに確認できたが、先行研究でも確認できる行為指示表現（命令）におけるナハレを含む他の行為指示表現との関係において、敬語形式はどのような位置を占めるものなのか。
- ・本稿では面接調査の結果からナルの基本的な使用をおさえたが、実際の会話では必ずしもこの限りではないことがある。宮津の敬語運用の全体像を記述するためには、談話資料もあわせて使うことで実態をより詳細に明らかにする必要がある。

次年度以降ではこれらの点を課題として調査を行ない、あらためて報告を行ないたい。

【参考文献】

- 遠藤邦基（1982）「京都府の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学 7—近畿地方の方言—』pp.87-112, 国書刊行会.
- 奥村三雄（1962）「京都府方言」榎垣実編『近畿方言の総合的研究』pp.253-300, 三省堂.
- 菊地康人（1997）『敬語』講談社学術文庫.
- 国立国語研究所（1990）『場面と場面意識』三省堂.
- （2006）『方言文法全国地図』第6集, 国立印刷局.

さかい まさし（大阪大学大学院生）

hinamasa_2422@yahoo.co.jp